

大学名	学長名	コメント
長崎国際大学	安東由喜雄	予測不可能な時代に高等教育機関はどう地域と共生し、どのような人材を育成するのか。我々が行っている地域連携プラットフォームは、地域の大学・短期大学、自治体、経済界と教育の質向上、地域課題などに取り組んでいる。1校ごとには小規模だが、本プロジェクトにより課題ごとに協力できる場所を連携し、日本列島最西端から高等教育機関の存在価値を高め、情報発信している。SDGsの取組など未来型プラットフォームも実践している。
長崎総合科学大学	池上国広	地方の私大にとって、18歳人口の減少を踏まえた大学の在り方が最重要課題と考える。将来的には大学間の連携・統合も視野に入れることになるであろうが、建学の精神に基づき教育研究を展開している私大の場合、その独自性を担保しつつどう対処するか、難しい問題であり議論を進めていきたい。 また、地域活性化への貢献も重要であり、最も期待される貢献は地域への人材の供給である。それを達成するためには、学生が地域理解を深めることが重要であり、学生を交えた地域との交流の機会・場を設けることを考えたい。
長崎純心大学	片岡瑠美子	「教育の質保証」に関しては、学科再編、全学科男女共学とした結果を検証し、3学科のカリキュラム改正を進め、各学科の特色ある資格の取得者の割合を高める。自治体、福祉施設、企業等との「地域連携」を深め、学生自らが地域のニーズを知り、地方創生に係る学生の意識を高める。また、対面授業を基本としながらも、遠隔授業の比は高まることを想定し、学修者を主体とした「デジタル環境デザインの構築」が必要である。
活水女子大学	湯口隆司	GDが前提としているグローバル化は、2022年のウクライナ侵攻により、価値と政治倫理観を重視したグループ化に変形してきました。 このような変動の時代でも、活水のキリスト教女子教育は個人の自由と女性の社会的自立を目標に「何を学び、身に付けたか」の教育的視点に立ち地域に貢献できる女性の育成をめざしています。創立150周年にむけた"Kwassui Vision 2029"で「次の時代を担う女性」を世に送るため、105項目の中期計画を策定し実践しています。
長崎外国語大学	姫野順一	答申の2040年に向けた高等教育のグランドデザインは、大学が改革を進める道標です。本学は学習者本位のDPを立て直し、新たに策定した中期計画に沿って、大学の組織とカリキュラムを点検中です。これまで外国語大学として語学力の育成を目標としてきたのですが、目下語学を社会に生かすための「新しい教養」(SDGs、DX、GXに対応できる教育)や、文理融合教育(STEAM)との関係を模索しています。
鎮西学院大学	姜尚中	ほぼ20年後の日本の高等教育のグランドデザインを考える時、やはり過去150年にわたる近代日本の高等教育をめぐるパラダイムチェンジについて思いをめぐらす必要がある。その場合にキーワードになるのは、地域性であり、多様性であり、個性であり、そして何よりもヴァナキュラー(vernacular)な文化ではないだろうか。とくにヴァナキュラーな文化というとき、そこに含意されているのは、高等教育機関、とくに大学が置かれている地域の人々の生活に深く関連した文化と、その根底に根ざしているローカル固有の様式を指している。これから20年、益々、汎用性の高い知識やテクノロジーの習得とそれを通じた問題解決能力の向上が高等教育機関に学ぶ修学者に求められていると同時に、他方では地域や地域圏の持続可能な発展のために益々、ヴァナキュラーな知の蓄積が必要不可欠になるに違いない。 地域に着床した大学のモデルとなるためには、汎用性のある知識とヴァナキュラーな知の二重性に目配りしたカリキュラムや実践教育が必要であり、人文・社会科学系の学科を中心とする鎮西学院大学は、そうした課題に果敢に取り組んでいきたい。
西九州大学	久木野憲司	「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」、これは人口が減少し、先々の社会の姿が予測不可能な時代における、将来も持続可能な大学のあり方を描いたものです。その内容は「めざすべき姿」「組織変革の促進」「教学改革の推進」「経営改革の支援」「課題の提示」の5項目に分けられます。これらはすべて大学間・地域間連携と深く関連しています。めざすべき姿は単独の大学だけでは達成できません。キーワードを列挙すると「学修者本位」「知と人材の集積拠点」「多様性・柔軟性」「教育の質保証のしくみ」「規模の適正化」「地域連携プラットフォームの形成」「多様なキャンパス」「公的支援」「制度改革」など多岐にわたります。めざすべき姿からのバックキャストでこれらの課題に産学官民の協働で取り組むべき時なのです。

学長コメント一覧

令和4年9月26日

大学名	学長名	コメント
長崎短期大学	安部恵美子	<p>本グランドデザイン答申では、短期大学を高等教育の多様化を担保する機関と位置づけている。短期大学が、大学とは異なる短期の高等教育機関として地域の社会・産業ニーズに即応するためには</p> <p>① 特に地元の専門高校(学科)と連携した、高大接続の職業専門教育の提供</p> <p>② 産学官連携による社会人の多様な学び直しの場の構築</p> <p>③ 短期大学教育の「質の高さ」と専門学校の職業実践教育の「柔軟性」を統合した短期高等教育の開発と発展</p> <p>以上の3点が課題と考える。</p>
長崎女子短期大学	玉島健二	<p>○18歳人口が、2040年には約88万人減少し、現在の70%程度になるとの推計が出ているように少子化・人口減少は避けて通ることはできない。</p> <p>○「2040年に必要とされる人材」の項目で、「21世紀型市民」に求められる能力を身につけさせることが必要であるという趣旨の文章が出てくるが、確かに理想としては、そのように思うが、短期大学が学生に「21世紀型市民」に求められる能力を想定されている程度を身につけさせることができるかは非常に厳しいと考える。</p> <p>○我々は、現段階においても、「学修者本位の教育」を展開しているという自負は持っている。そのために、学習成果の可視化に努めているし、今後も継続していく必要がある。</p>
西九州短期大学部	福元裕二	<p>グランドデザイン答申に沿って、本学では、Society5.0社会の実現に向けて本年度から「データサイエンスの基礎」「SDG s 入門」「SDG s の実践」を全学生の必修科目として授業を展開するとともに社会人向けに同様な講座も開講し、地域課題の共有、解決に向けて一歩踏み出した。地域社会との連携については複数の地方自治体や民間企業との包括連携協定は結んだものの未だ実装が不十分であり、今後、QSP方針に従い、地域ニーズに沿った発達障がい関連、食育関連、国際交流等の活動を産官学により協働で実施したい。</p>
佐賀女子短期大学	今村正治	<p>本学においても、これまで高等教育機関と社会との関係を中心に、その将来像を描こうと試みてきたが、この答申を受けてその将来像を明確に形づくることの重要性を改めて感じている。本学の将来構想計画である「Sajo Future 2030」においても、情報系の科目を学科や全学レベルでどのように配置するかという課題や、多様で柔軟な教育プログラムの中で学生の学習暦を積み重ねていく学びの形式など、この答申を意識しながら計画をしている段階である。また、短期大学が地域の「知と人材の集積拠点」であるために、学校全体や教育個人の研究活動の活性化にも継続的に取り組んでいくことを検討している。</p>
九州龍谷短期大学	後藤明信	<p>短期大学のおかれている状況は、今後さらに厳しさを増していく。その時代環境に対応していくことが求められているが、そのためには大学自体が常なる変革を遂げていかねばならない。それができない時は、退場が迫られることになる。小規模の短期大学にとって、かなりハードルが高いが、何とか変革のための努力を続けていくしかない。</p>
精華女子短期大学	山田耕路	<p>多様な高等教育機関が存在しているが、その役割分担に関する記載が十分ではない。短期大学に関する記載が少量あるが、今後どのような役割を担っていくべきか不明である。そのため、グランドデザインに従ってどのような貢献を行うべきかを考えることができないのが問題である。</p>
香蘭女子短期大学	坂根康秀	<p>短期大学は主に地域に必要とされる人材を教育し輩出している。学生の成長実感、満足度を上げることが最優先であるが、今後は多様な学生の受け入れやリカレント教育に取り組むことが必要であろう。また、各短期大学は小規模であるため、プラットフォームや協力体制を設けることが人口減少下での短大教育の充実につながるものと思われる。</p>